

尾畑留美子 著

## 『学校蔵の特別授業——佐渡から考える島国ニッポンの未来』

評・齋藤和郎（佐渡番委茂左衛門店主）

## 書評

本書は、二〇一四年八月と翌年六月に、佐渡島において著者が主催した「学校蔵の特別授業」を、同授業で講師を務めた三名の方々との対談を通してとりまとめたものである。

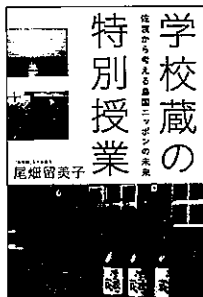
学校蔵とは、廃校となった西三川小学校校舎を、著者の営む酒造会社が酒蔵として復活させたもの。酒米づくりから醸造に至る酒造りの過程を学び、多彩な人々との交流を育み、佐渡という島の環境（自然と文化、歴史）を可視化していく、その拠点である。

この中の「交流」の場づくりとして開催されているのが「学校蔵の特別授業」だ。「佐渡から考える日本の未来」をテーマに、地方のあり方や現代に生きる価値をとらえ直し、より良く生きるための羅針盤を多様な角度から解き示す講師陣と、年齢・職種・居住地もさまざまな生徒たちがワークショップ形式で議論し、日本の縮図といわれる佐渡から、わが国と地域の将来の希望を考えていく。

佐渡島の造り酒屋に生まれた著者は、大学進学とともに島を離れたが、やがて家業を継ぐべく島に戻る。東京で仕事をバリバリとこなしていた時とは大きく異なる島時間の

中で、何年もの間、八方塞がりな日々が続く。当時、著者はこの行き詰まりを人や環境のせいにしていたと振り返る。しかし、ある日、周りではなく自分自身を変えなくてはならないことに気づき、退路を断つことで、たくさんの選択肢が見えてきたという。この視座の「転換」こそが本書のメッセージではないだろうか。田舎だからできない、と否定だけに終わるのではなく、それを受け入れて根本に立ち返ること。島の流儀に従うことも少し違う。視座の転換とは、ただ視点を変えよう、という表面的な話ではない。できない理由を並べるのではなく、できる可能性を探ることである。地方だからこそできることを。

章立ても「子供基準」で行動すれば人も自然も豊かになっていく（長期で見れば地方は絶対に勝つ）（地方に見いだす「希望」とわりやりやすく、難しい方法論が書いてあるわけではない。読者自身と地方の「転換」のきっかけとなる一冊である。



学校蔵の特別授業  
尾畑留美子  
平成27年11月  
日経BP社  
定価：1,600円＋税